

平成27年度 第3回石岡市ふるさと再生会議 会議録

1 会議の名称

平成27年度 第3回石岡市ふるさと再生会議

2 開催日時

平成27年8月19日（水）14時00分から16時00分まで

3 開催場所

八郷総合支所1階101会議室

4 出席者

18人

5 会議録（要旨）

（1）開会

（2）会長挨拶



（3）議事

1) 石岡市「人口ビジョン」（素案）について

【会長】

事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

資料説明（資料1）

【会長】

ご意見、ご質問あればお願いしたい。

【委員】

この資料はふるさと再生会議のための資料なのか、それとも市民に公開するのか確認したい。

【事務局】

市民へ積極的に周知広報していく予定である。会議結果も踏まえて随時ホームページ掲載もしている。

【委員】

公表していくのであればP3の脱字、P5の1文の目の文意の修正、P10以降のグラフの表示順など見やすくしてほしい。

【会長】

ご指摘の内容について修正をお願いします。

2) 石岡市「総合戦略」について

【会長】

事務局より 4 つの基本目標ごとに資料の説明をお願いしたい。

【事務局】

資料説明（資料 2、資料 3）

【会長】

「基本目標 1 市の強みを活かした安定した雇用の創出」についてご意見、ご質問あればお願いしたい。

【委員】

有効求人倍率は 0.74 と低いので企業誘致を進めてもらえるのは望ましいが、石岡市の工業団地に空きはあまりないと聞いている。今後このような土地を造成するのか？

【事務局】

大きな工業団地は埋まってきている状況。企業を誘致するような適地確保は課題となっている。この必要性も含めて検討していく。

【会長】

人口 6 万人を目指すのであれば、もっと具体的な施策が必要となるだろう。

【事務局】

庁内会議で具体化について議論したい。

【委員】

KPI の管理はどのようにしていくのか。部署で配分するのかどこかでまとめて管理するのか教えてほしい。また、全体的な施策として総花的である。KPI も漠然としすぎているので、重点化してもいいのではないか。

【事務局】

KPI の管理については、市役所の各所管部署で数値を把握し、ふるさと再生会議で効果検証を入れていきたいと考えている。施策に関しては、人口減少に対する施策を幅広く入れている状況。重点的な施策を入れていくことについては庁内会議等で議論していきたい。

【委員】

それぞれの KPI に所管があるのか。

【事務局】

複数の部署で合わせていく KPI もある。

【会長】

全体の数値は本部で対応、個別は各所管で把握するというのでよろしいと思う。重点化すべきと思う分野があれば是非お願いしたい。

【委員】

強み、弱みのアンケート結果を踏まえてどこを重点化していくのか検討できると思う。雇用の創出であれば農林業を伸ばしたほうが石岡らしいと考える。

【委員】

ICT を活用した就業支援については、職業安定所でも実施しているが、景気がよくなると受講者が減ってしまう。また、職業安定所でやっているような訓練では企業のニーズに対応できないのが現状。市役所ではそのような現状を踏まえた上でこのような項目を上げているのか。ICT の表現については市民に分かりやすいように変えた方がよい。

【事務局】

分かりやすい表現については工夫したい。また、ICT スキルの取得支援は現在市では実施していない。今後必要になる技術と考えて設定しており、具体的な施策は、先行事例の状況を踏まえて効果的なものを戦略に記載したい。

【会長】

例えば、インセンティブを導入してはどうか。受講者が就職した場合の奨励金や助成金を企業や個人に出すなど。ただ単に実施するのではなく就職の効果を高めることが有効。

【会長】

石岡は研究機関などの誘致が有効ではないか。大学で学んだことを活かせる職場を設けることで戻ってくる。企業内に研究所を作れば助成金を出すなどすれば、新たな企業用地は必要なく就職者を増やせる。農地の大規模化、放棄地の農地化を通じて新規農業従事者の増加が期待できる。

【会長】

中心市街地の活性化についてはどういうものがあればよいか。

【委員】

中心市街地に行く機会を作るためには「楽しいイベント」があれば出かけるきっかけになると思う。流行りのイベントや八郷の広い場所で石岡の自然を活かしたイベントがあればよいと思う。

【会長】

ラウンド1という総合アミューズメントパークのような施設もある。

【委員】

そのような施設があれば行きたいと思う。さらに、周辺の飲食店に立寄るなど回遊も高まると思う。

【会長】

地方創生に関しては「人の流れを変える」という取組みが大事であり、集客施設の誘致は施策のひとつであると思う。

【委員】

使われていない工業団地の利活用の視点で活性化を図ることはできないか。現在の各工場でも3分の1は使われていないと思われる。小さな地元企業でも入れるような仕組みができないか。

【副会長】

他都市の工業団地では取得した土地の一部を遊ばせている企業もあり、そのような状況を自治体が把握していない現状もある。

【会長】

そのような調査をしていくことを位置付けることも考えられる。

【事務局】

資料説明（資料2、資料3）

【会長】

「基本目標2 市の魅力を活かした新しい人の流れをつくる」についてご意見、ご質問あればお願いしたい。

【委員】

この項目については、地域間の競争が激化している感があるが、地域間の連携が必要と考える。また、もっと民間活力の有効活用をPRしてもよいのではないか。民間提案を求めて有効であれば助成金を出すなどを検討してはどうか。地域おこし協力隊は石岡市の魅力を活かせると思う。

【委員】

観光については、いしおかのお祭り以外の第2の柱に繋がる施策をどう盛り込むのか。

【事務局】

観光交流推進事業の中の朝日トンネル経由バス路線の試験運行や東京圏への観光PRなどの情報発信を通じて観光交流の底上げを図っていきたいと考えている。その他には、隣接自治体との連携「花の回廊事業」などにより観光客を増やしていく。

【委員】

例えば歴史を活かして、まちとしてのコンテンツを充実させていく視点があってもよいのではないか。

【事務局】

その点についても庁内会議で諮っていききたい。

【会長】

歴史の視点は重要。石岡はもともと県庁があったところ。市の強みである歴史を素材にしたものを活かした取り組みを入れたほうが良いと思う。

【事務局】

歴史の視点で交流人口を増やしていくことを検討したい。

【委員】

現状の HP やポスター等の PR だけでは足りない。テレビやラジオ、インターネットを通じて若者に向けて大きく発信させていくべき。

【会長】

成田は最先端医療を活かしたメディカルツーリズムを行っている。筑波山をターゲットとしたジオツーリズムなどの新たなツーリズムを開発していくことも有効だと思う。ツーリズムの開発ではあまり費用も掛からない。例えばペットツーリズムやヘルスツーリズム、スポーツツーリズムもよい。

【事務局】

石岡市に合ったツーリズムについて検討していきたい。

【委員】

茨城県全体でイメージアップに取り組んでいる。守谷市やつくば市では住みやすさの上位に入っている。石岡市の良さを活かすのも重要だが、そのような分析も必要ではないか。茨城県のかぼちゃをブランド化しているなど、石岡市の農産物のブランド化、6次産業化も検討して欲しい。

【委員】

朝日トンネルの他、2つのトンネルが計画されているが、フラワーパークまでは観光客が訪れるがそれより先に人が来ていない。フルーツラインを活かした戦略をぜひ検討してほしい。フルーツラインは農道のため、沿線の農業振興区域は開発ができない。企業活動への弊害となる可能性がある。沿線の規制を撤廃・緩和することができないか。

【会長】

規制は国によるものが多く、石岡市のみで対応できない場合もあるが、特区で認めることが有効だろう。戦略には特区を検討するなどの表現を盛り込んで行くべき。

【事務局】

問題の有無を確認の上、記載することを検討したい。

【事務局】

資料説明（資料2、資料3）

【会長】

「基本目標3 若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」についてご意見、ご質問あればお願いしたい。

【委員】

2人目3人目の子育てに対する経済的な支援が必要。夫の子育て参加もあると仕事復帰がしやすくなる。

【会長】

意識の変容については表現が難しいが、小学校等で保護者への啓蒙などが考えられる。

【委員】

経済的支援として、いくら支援が必要か。金額の提示がないと具体的になりにくい。

【委員】

1年で1人10万円程度の支援が有効ではないか。1か月で1万円程度。

【委員】

具体的な数値が出たが、行政としてはどうか。

【事務局】

現行の市の施策では、すくすく赤ちゃんクーポン事業などの育児用品の支給などを考えている。児童手当の支給とあわせてどこまで支援できるのか検討が必要。

【委員】

人口減少は避けられず、このままいけば高齢者だけが増えていくことになる。そのため高齢者への支援も必要だが、一方で若い人への支援も必要である。どちらに重点をおくかはある程度決めていかなければならないのではないか。

【事務局】

高齢者には生涯現役の推進として健康で活躍してもらうことで介護医療費を減少させていくことが必要。子育て支援との両者のバランスについては、出生率向上を重点化させていくことが求められている

【委員】

市民への分かりやすい説明を行い、若い世代の理解を促していくことが必要。

【委員】

若い人が増えるなら、出産ができる環境整備などの準備が必要。医療分野についての記載がないので何かしら入れるべき。

【事務局】

産婦人科などの医療についても含められるか検討したい。

【会長】

高萩市では医師1人あたり年間2千万円を助成している。どこまで記載できるか分からないが参考にして欲しい。

【会長】

出会いから結婚、出産、子育て、大学卒業まで支援する。八王子のようにそこまで支援するところもある。

【副会長】

一生を石岡市で過ごすストーリーが見えてこない。早急に作るべきでは。

【委員】

目玉の施策がない。石岡市ならではの施策が見えてこない。他市がやっていない支援を行うことが有効。子育て世代は情報の拡散が早いので、石岡市でしかやっていないことをやるのがよい。外遊びについては、他市から遊びに来られるところを作ることも有効。自然体験を重視した教育など、教員の意見を聞くことも有効。

【会長】

自然体験は石岡市の特性。これの活用をすべきではないか。

【委員】

石岡市で自然学習をしたいと考えても他市の団体に頼むことしかできなかった。

【会長】

今なければ、公民館講座などで取組ことも考えられる。

【事務局】

ジオパーク団体の活動を切り口にしながら、取組を広げていくことを記載したい。

【会長】

具体的で良いと思う。都会と自然はトレードオフ。石岡では自然を活かすことは考えるべき。

【事務局】

資料説明（資料2、資料3）

【会長】

「基本目標4 時代に合った地域をつくり、安心して心豊かな暮らしを守る」についてご意見、ご質問あればお願いしたい。

【委員】

石岡市は自然災害が少ない安心できる印象がある。それを調べてPRできないか。

【会長】

現状を確認して、実際に少ないのであれば企業誘致にも使える。東日本大震災でその点をPRできなくなってしまった自治体は多い。

【事務局】

災害履歴など統計情報を整理する。

【会長】

郷土愛について。石岡の子どもたちに向けて「石岡検定」をやってはどうか。学校と協力してカルタを作り授業で使うことで、地元を知るきっかけになる。

【事務局】

郷土検定や学校教育で使える教材の作成についても検討したい。

【会長】

公共交通として、オンデマンド運行の状況はどうか。

【事務局】

デマンドタクシーを運行している。1日160件程度の利用があり、今後より使いやすいように検討していきたい。

【委員】

子どもの貧困について、地域の拠点を作ってボランティアで支援することも考えられる。

【事務局】

地域の拠点に持たせる機能、どこに拠点を置くかを今後検討していく。

【委員】

買物弱者への対応は具体的にはどこまで考えているのか。

【事務局】

具体的な検討はこれからである。送迎や買い物代行など色々手法があるが、ニーズの把握を行い、地域にあった手法を検討していく。民間事業も視野に入れながら支援内容を検討したい。

【委員】

記載するのであればある程度状況をつかんでおくことが必要。民間であればセブンイレブンなどの連携も考えられる。

【委員】

少子高齢化では公共交通の路線をいかに継続して運行させていくかが重要。事業者任せると費用対効果を重視するのは当然であるため、行政の支援が必要。

【委員】

石岡～八郷間のバスは片道500円を越える。料金優遇も必要。ラウンド1のような施設が中心部にできれば八郷からも人がくるのではないか。

【委員】

工業団地にバスを入れるべきではないか。このような検討はしているのか。

【委員】

工業団地の従業員はほぼマイカー通勤、外部からの出張者はタクシーを利用している。路線バスは時間や本数が確保されないと使いにくい。

【委員】

出張者がデマンドタクシーを使うのではないか。

【事務局】

近年では検討していない。通勤手段として有効であれば検討する。

【会長】

自動車社会の文化である石岡市において、通勤者に対するバスの支援よりは交通弱者への支援への対応を考えるべき。

【委員】

地域の拠点づくりに関し、現在拠点となる場所はどのくらいあるのか。

【事務局】

公民館や集会所の拠点数は今持ち合わせていない。地域の拠点づくりとしては、今ある機能だけではなく、今ない機能を持ちあわせる拠点を増やしていきたいと考えている。

【会長】

多世代型交流機能についてはしっかり考えていく必要がある。

【会長】

PPP や PFI 事業など、民間活用を考えていく必要がある。例えば、多目的施設の運営など。

【副会長】

福井県鯖江市では市民からの提案事業に助成している。民は企業だけでなく市民も含まれるという視点も入れてほしい。

【会長】

民間だけでなく市民という記載もすること。

【会長】

全体として意見はあるか。

【委員】

大学生を石岡市に戻す施策を具体的に盛り込めないか。石岡市・小美玉市の合同就職説明会に東京の大学生は来ていない。

【会長】

東京の就職説明会などに石岡市が情報を出していくことや石岡市出身を採用した場合に奨励金を出すなどの施策も考えられる。東京での就職説明会にそのようなチラシを出す等のPRの工夫も必要。

【委員】

様々な媒体を活用して移住者を募集し、若者向けの定住支援を行ってい

くことができないか。

【副会長】

徳島県神山町で事例がある。街中に Wi-fi を整備している。

【会長】

定住促進をワンストップで支援する部署を設置する自治体が出てきている。

【副会長】

流山市には町を PR する専門部署がある。ワンストップで PR していく課が必要。

【会長】

ワンストップで単独部署でやるのが有効だろう。

【委員】

施策には強弱が必要。重点プロジェクトを打ち出していくことがよい。

【委員】

平成 31 年に石岡市どのような市になっているのかを市民目線で示してほしい。今回の戦略では行政がやるのが主体であるが、地域おこし支援隊など市民が主体となって取り組むべきことも記載されていて良いのでは。

【副会長】

誰がやるかを促すのが首長、議員の役割だろう。

【委員】

石岡市でのスポーツイベントも多く開催されている。例えば筑波山ハーフマラソンなど。全国からの人が集まるが石岡での宿泊施設が乏しい。このようなイベントをやっていることを知ってもらうこと、市民に対しておもてなしの心を持ってもらうことが必要。大きなイベントは石岡市の PR にもなる。

【委員】

空き家バンクをお願いしたい。引っ越してきたくても家が見つからない人が多い。合宿などイベントで使える空き家があってもよい。八郷にあるペレットストーブを作る会社をうまく使って、広報につながるのではないか。フェイスブックで石岡市の若手職員が勉強会をやっているのを見たがその意見を反映しているのか。

【事務局】

空き家バンクなど人口減少問題研究会からの提案も盛り込んでいる。

【会長】

大学を市に誘致するのはシティブランドをつくる 1 つの戦略。石岡市にある法政大学の活用して、ゼミ合宿、市民講座など交流人口の拡大を図ればよい。できれば法政大学と協定を結ぶと良いと思う。

【委員】

自然体験などの石岡市に今あるメニューをまとめて欲しい。

【会長】

まとめ方は検討させてほしい。ホームページで人気投票する仕掛けをつくってPRしていくことも考えられる。市の資源は広い分野にまたがる。行政だけでは視野が狭まるので市民の協力を得ながら整理が必要。

【委員】

戦略の中に「検討」という言葉あるがその取り扱いはどうするのか。5年間で検討では遅いのではないか。できるだけ「検討」という言葉はない方がよい。

【事務局】

KPIを経年的にチェックしながら検討を実施に変えていくことを考えている。検討を推進に置き換えるなど表現にも留意したい。

(4) その他

【事務局】

次回の日程は調整中である。追って連絡する。

(5) 閉会

以上